

伝統の木内神楽奉納

香取 住民の安泰や豊作願う

香取市木内（きのうち）の神社「木内大神」（木内均宮司）で3日、木内神楽Ⅱ市無形民俗文化財Ⅱが奉納された。地元住民の安泰や五穀豊穰（ほうじょう）を祈願し、毎年3月3日に行われる。境内は、地域に伝わる伝統芸能を一目見ようと多くの見物客らでにぎわった。

正確な起源は明らかになっていないが、木内神楽は香取神宮関連の資料に1740年には演じられていた記録が残っている。その後

一時中断したこともあった中期に地元有志が保存会を
が、明治初期に再開。昭和 結成、現在は19人のメンバ

ーが担い手となり受け継いでいる。

継承される十二座神楽は、てんぐの舞から始まり、途中で紅白の団子などが振る舞われた。保存会長の伊藤弘弥さん（60）は「多くの人にこの神楽を知ってもらい、若い人を中心に伝えていくことの大切さを感じてもらえたら」と話した。木内神楽は4月3日にも同市小見川の須賀神社の祭礼で奉納される。



保存会のメンバーによって奉納された神楽。写真は二つ目の演目の「三宝荒神」＝3日、香取市木内